



行政と大学との協働でつくる インクルーシブパーク

佐藤 真澄（山口学芸大学）

協働の成立要件



知的好奇心の共有が「協働」の出発点



「学生ならではの」への期待が前提



双方がそれぞれに目的がある

PBL (Project Based Learning) とは…

「課題解決型学習」と言われるもので、学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていくという学習方法で、「アクティブラーニング」の一つとされている。

学校内で提示された事例をもとに検討するチュートリアル型と、地方自治体や企業と連携しながら行う実践体験型がある。

主体性
の熟成



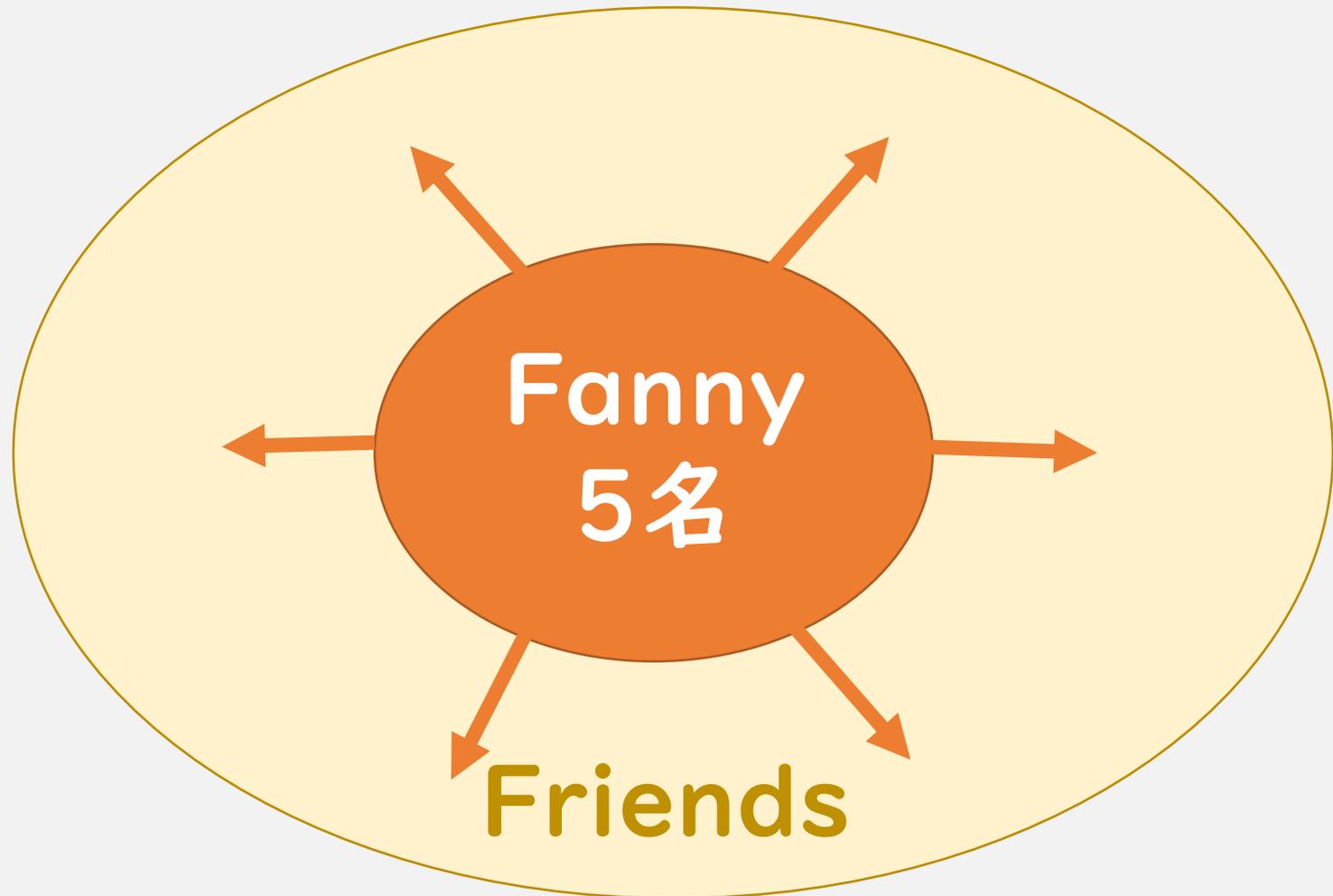
思考力・
応用力・
表現力
の向上

山口学芸大学としての参加の状況

- 令和4年11月の土曜日・日曜日・祝日 🍁
合計8日間 8:00~17:00
- 参加した学生数 1年生~4年生 88名
午前・午後の2部制で、のべ人数で151名
- 参加した教員 2名
- 主な業務
 - ① パーク内の装飾
 - ② 遊具で遊ぶ子どもたちの見守りとサポート
 - ③ イベントの企画・運営
 - 退場口でのミニイベント
 - スペシャルデイのイベント(2日間)

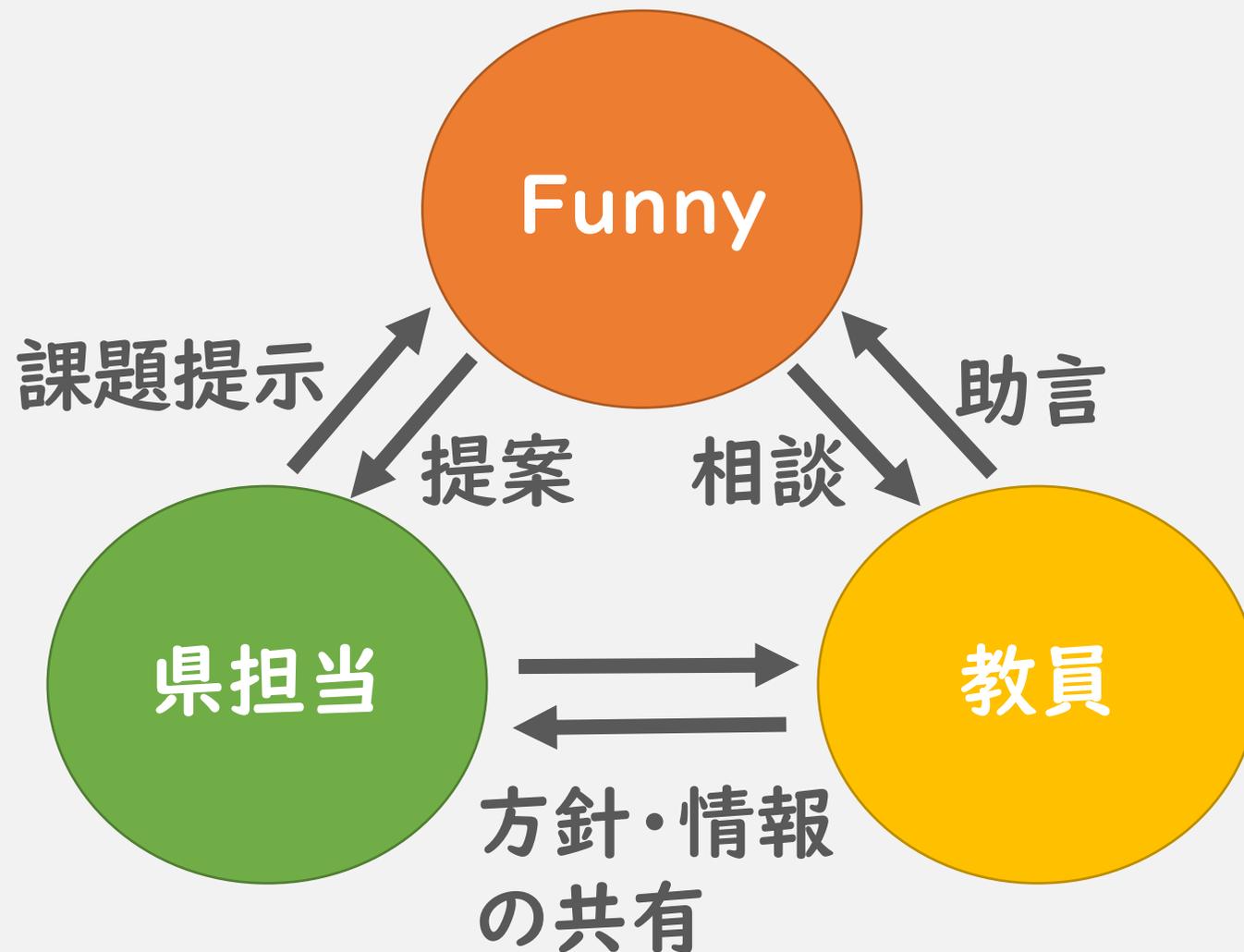
学生の主体性を熟成するための仕掛け ①

核となるチーム + 参加者としてのメンバー



学生の主体性を熟成するための仕掛け ②

Funny・行政・教員のフラットな関係づくり





学生の主体性を熟成するための仕掛け ③

成果を確認・発表する機会の設定

- ① プレゼンテーションの準備から発表までのプロセスで、自分たちの活動を俯瞰することができる。
- ② リフレクション（反省・省察）することで、自分たちの活動を意味付けすることができる。
- ③ 自分たちだけの反省ではなく、協働の成果として共有することができる。